

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 7 月 10 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	柴田翔平

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
熊本県、熊本サンクチュアリ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物福祉実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 11 月 14 日 ~ 平成 29 年 11 月 17 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
野生動物研究センター 平田聡教授、森村成樹特定准教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
<p>本実習は熊本サンクチュアリにて飼育チンパンジー、ボノボのエンリッチメントをテーマとして行われた。</p> <p>11/14 熊本に到着、施設に関する説明を受ける 11/15 環境エンリッチメント用のフィーダー作製、チンパンジーの飼育ケージに設置し観察 11/16 作製したフィーダーを再調整し、ボノボの飼育ケージに設置し観察、結果についてまとめる 11/17 結果について発表</p> <p>本実習ではまず、施設に関するレクチャーを受け、チンパンジー、ボノボの飼育ゲージを見学した。その後、実習生が二班に分かれ、両種を対象にしたフィーディング装置の考案・作成を行った。作成した装置を各種の放飼場内部または周囲に設置し、30 分間の行動観察を行い、利用方法や利用時間を記録した。チンパンジー、ボノボが長時間滞在するようにと、つなげた塩ビパイプを蜂蜜水で満たし、ロープをくぐらせた「Endless Honey Trap」を作成した。もう一方の班では、自然素材を用いた低コストの装置作りを目指し、竹を用いたフィーディング装置の「KAUYA」を作成した。</p> <p>観察の結果、チンパンジーでは 2315 秒間、ボノボでは 2272 秒間フィーディング装置「Endless Honey Trap」の使用が見られた。利用時間はチンパンジーの方が長い、装置の場所を訪れる頻度はボノボの方が多かった。チンパンジーでは一度装置を使用し始めると、長時間そこに滞在していた。これら二種の間には、食物に対する執着や、新規の装置に対する好奇心等に違いがあるのではないかと考えられた。他班の「KAGUYA」に関しても、二種で使用時間に違いがあった。両種が共通して長時間の採食を行うようなフィーディング装置を作成することは難しく、各種の行動傾向に合わせた装置を作成するのがより有効であると思われた。</p> <p>本実習を通して、エンリッチメント装置の設計は、対象種となる動物の性質を理解・考慮した上で行うことが重要であると学んだ。また、他班の装置作成時の目的にもあったように、エンリッチメント装置を作成する上では、コストや飼育設備への親和性について考慮することも同様に重要であると学んだ。個人的には、野生のチンパンジー、ボノボを研究対象としている学生として飼育下での二種の行動、人に対する反応の違いを観察する機会を得たことは貴重な経験であった。今後の研究においても、今回得た視点を活かしていきたい。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

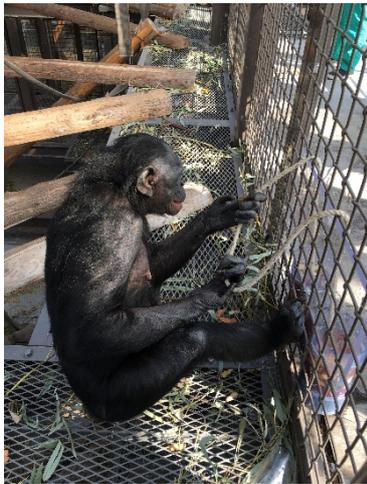
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



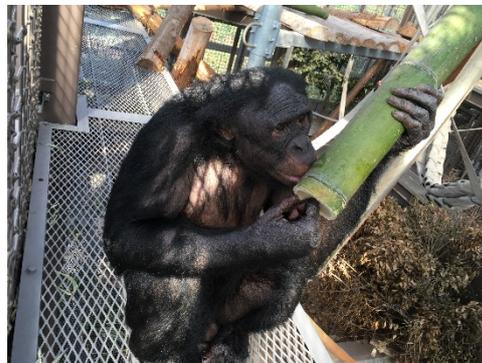
“Endless Honey Trap”



“KAGUYA”



“Endless Honey Trap” を使うボノボ



“KAGUYA” を使うボノボ

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて行われました。平田教授、森村准教授、熊本サントチャリ職員の皆様、他の実習参加者のみなさまに感謝申し上げます。